



# IGC

## 事務局ニュース

# No.17

## 第29回IGC事務局

電話：0298-54-1627  
ファクス：0298-54-3629

### おみやげ物語 (1) 日本ではどんなもの？

IGCのような大きな学会では天然石で作ったおみやげが用意されており、国際集会に出席する際の楽しみの一つです。また大きくない学会でも心暖まる贈物をいただくことがあり、地元の熱意が感じられて学会期間中に出来るだけ交流を深めて、地元の人達にお返しをしたい気持ちになります。値段にして数百円の小さな贈物が、真の国際交流に役立つわけです。

第29回 IGC 事務局では、日本で入手できる天然石の

おみやげを集めていますが、まだ種類は多いとは言えません(写真1)。写真のAは讃岐のカンカン石です。これは1500万年前に噴出した瀬戸内火山岩類のうち、安山岩質溶岩の破片が吊って叩くと良い音色を出すものです。これは加工できませんので、IGCのバッジなどはつけられそうにありません。

Bは岐阜県の赤坂石灰岩産のフズリナ化石入りペーパーウェイトです。これは、化石は大きく美事なもので、昔からよく文鎮、灰皿などに加工されておりました。Cは同じく石灰岩の文鎮ですが、山口県の秋吉台付近のも

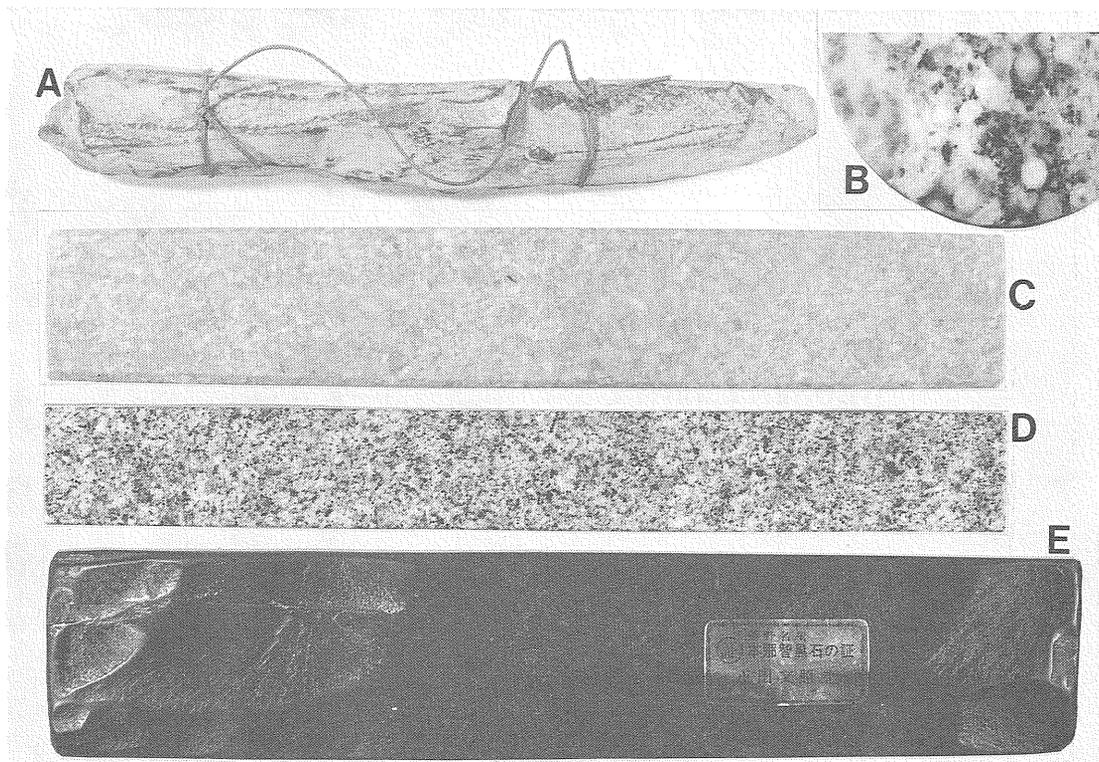


写真1 日本の天然石みやげ、A：讃岐のカンカン石、B：赤坂産フズリナ石灰岩、C：秋吉産フズリナ石灰岩、D：庵治花崗岩、E：那智黒の文鎮。スケールは横幅、つまり那智黒が21cm。

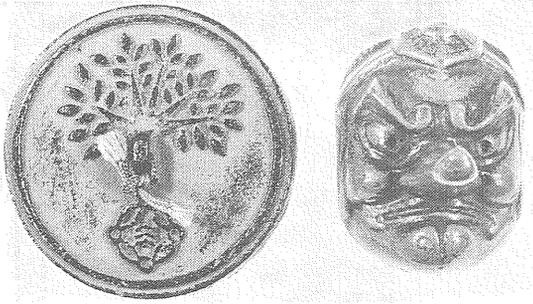


写真2 日本の銚鉄みやげの例。左側の直径75mm

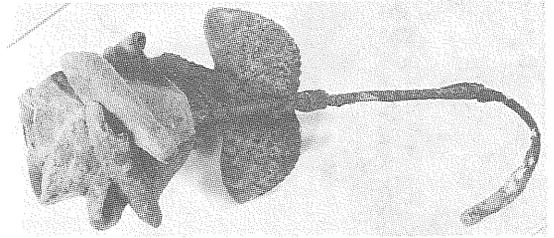


写真5 石のばら, チェコスロバキア産。長さ14cm

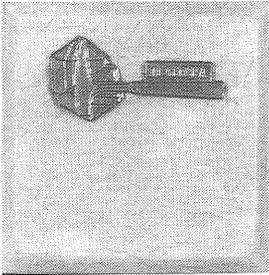


写真3 タイ産石灰岩(一辺が70mm)

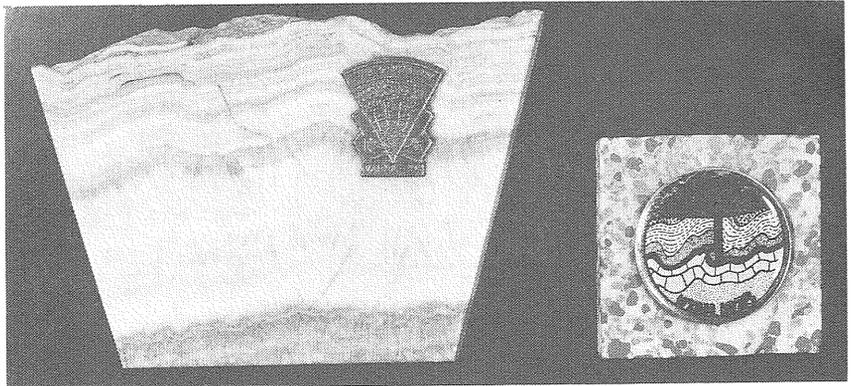


写真4 湧泉沈澱物, トラパーチン(ブルガリア産, 左)と変成スカルン鉱石(アメリカ, 右)。右側の一辺が46mm

のです。化石は小型ですが、色が少し茶味を帯び、独特の質感があります。

Dは高松東方、庵治町産の細粒黒雲母花崗岩で作った文鎮です。この花崗岩は細粒なので細かい加工に向いているほか、磨いて良い艶が出るため、石仏、燈籠、墓石用石材の最高級にランクされているものです。文鎮のサイズではわかりませんが、<sup>1</sup>と称される直径1cm程度の黒雲母がやや多くて沈んでみえる斑点が出るものが極上とされておりま

Eは那智黒の文鎮です。和歌山県那智川や熊野川上流に分布する中生層中の黒色緻密な珪質粘板岩で作ったものです。基石の原料として著名なものです。

また少し加工された製品も IGC のおみやげにできる可能性があります。たとえばちゅう鉄で作った天狗の面など(写真2)は外国人に喜ばれるかも知れません。

これまで出席した諸外国の例では石灰岩やマーブルなどの  $\text{CaCO}_3$  (主に方解石) の化学組成を持つ岩石が多いようです。一昨年ワシントンの IGC もそうでした。その理由は切り易く、磨き易く、また量的にも多量にあることにあるのでしょう。

写真3は1978年タイのパタヤで開かれた第3回東南アジア広域地質鉱産会議のもので、原石はタイ産の石灰

岩です。色は淡いピンクとクリーム、バッヂは錫石の双晶とハンマーを組合せたものです。

写真4の左はブルガリアの黒海に面したバルナで1974年に開かれた国際鉱床学連合(IAGOD)第4回討論会のもので、リズム的な沈澱構造を残すトラパーチンが用いられています。右は同じく第5回、1978年にアメリカはユタ州のスノーボードで開かれた時のものです。粗粒再結晶方解石にフランクリナイト(黒)とウイレマイト(茶)が散点する、フランクリン鉱床(N. J.)産の得がたい変成亜鉛鉱石から作られています。

珍しい  $\text{CaCO}_3$  としては写真5があります。これはチェコスロバキアの温泉地カールスバードで開かれたIGCPの錫鉱床と花崗岩の会議の時のものですが、この温泉は数千mg/lに達する重炭酸イオンを含んでいます。したがってその温度を下げることにより、たちどころに霰石( $\text{CaCO}_3$ , 方解石と同質多形を作る)として沈澱します。写真は、人造のばらを温泉水にしたし、霰石の結晶でコーティングすることにより作られた「石のばら」です。

良い案がありましたら下記までご一報下さい。

〒305 つくば郵便局 私書箱65号 IGC事務局

ファックス: 0298-54-3629